

感謝報告

いずみの活動をおぼえて祈りとともにたくさんのご支援を頂き、心から感謝申し上げます。日本基督教団東日本大震災救援募金の「いずみ」への指定献金をご報告いたします。記載落し・ミス等ございましたらご連絡ください。(敬称略・順不同・特別記載のない団体は教団の教会・団体です。)

*個人献金 松崎豊、佐々木可奈子、阿部奈々、高戸佐和子、内田淑子、垣内純子、山崎喜美子、中島重信
匿名(合計 102,620円)

*団体献金 青山学院オラトリオ・ソサエティOB会、御影教会、奥羽教区、埼玉教区「中学生、SSK」
千里聖愛教会、田園調布教会、大阪教区(合計 257,826円)

*献品 後宮ひろみ

以上感謝をもってご報告させていただきます。(2014年8月～2014年11月末)

「いずみの会」

「いずみの会」は、「放射能問題支援対策室いずみ」の活動に賛同し、その活動を支えて下さる会員を募集しております。年会費は、正会員(一口3,000円)、賛助会員(一口1,000円)、団体正会員(一口5,000円)です。「いずみの会」入会専用の振込用紙がございますので専用振込用紙にてご入会下さい。

お問い合わせは、放射能問題支援対策室いずみの会事務局(放射能問題支援対策室いずみ)まで。

*12月4日現在の入会状況

正会員 47名、賛助会員 37名、団体会員 5団体。会費総額385、810円(振込手数料、事務費差引後)

ご支援のお願い

いずみの活動は国内外のキリスト教支援活動によって支えられています。

この活動をつづけていくために皆様のご協力をお願いいたします。

日本基督教団東日本大震災救援募金に

「東北教区放射能問題支援対策室いずみ」への指定献金としてお振込みください。

送金先 ゆうちょ銀行
振替口座 記号番号 00110-6-639331
加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金
通信欄に「東北教区放射能問題支援対策室いずみ指定献金」とお書きください。

運営委員長 小林林(鳴子教会)

運営委員 明石義信(常磐教会) 保科隆(仙台東一番丁教会)
布田秀治(いずみ愛泉教会) 最上千絵子(仙台北教会)

室長 保科隆(仙台東一番丁教会)

顧問 篠原弘典(原子核工学専門家)

スタッフ 後藤重雄 渡辺広衛 服部賢治

日本基督教団東北教区 放射能問題支援対策室いずみ

UCCJ Tohoku District Nuclear Disaster Relief Task Force "IZUMI"
〒980-0012 仙台市青葉区錦町1丁目13-6
TEL/FAX 022-796-5272
メールアドレス izumi@tohoku.uccj.jp
ホームページ http://tohoku.uccj.jp/izumi/



いずみ

題字 丹治正雄氏

「いずみ」の一年間を振り返って

室長 保科 隆

東北教区放射能問題支援対策室「いずみ」が多くの方々の祈りと支援に支えられて一年の歩みを経過しました。国内だけではなく、海外からも力強い支援をいただいています。この一年を振り返り感謝の思いでいっぱいです。「いずみ」は福島第一原発事故後の東北教区にあって、健康相談と検診、保養プログラム、訪問と傾聴の三本の柱を立てて取り組んでまいりました。特に検診ということでは、放射性ヨウ素の影響を受けやすい子どもの甲状腺の検査を宮城県を中心にすでに9回行っています。検査に必要なエコー診断のための器機は、日本基督教団の震災特別会計よりの支援を受けて自前のものを備えることが出来ました。それによって月に一度の検査が今年7月より可能になりました。エコーの画像診断のできる三人の医師のご協力を得ています。また健康相談会については原発事故後すぐに大阪教区からの派遣支援により専門の医師の協力をえることが出来ました。どうぞ今後とも皆さんの御支えをよろしくお願いいたします。

甲状腺検査 宮城県内各地で実施

いずみは、仙台市内のみならず、宮城県内各地で甲状腺検査を行うことができるようになりました。宮城県は、県知事が原発事故のあと、子ども達の健康調査に積極的ではないため、事故時の風向きで放射能汚染が著しかった地域の親たちは、子どもの健康に不安をいただいています。その不安を和らげるとともに、県内の子どもたちの健康被害の有無を慎重に見極めることがいずみの使命であると考えています。

8月31日には宮城県白石(しろいし)市にある、白石市ふれあいプラザで検査を行いました。同市在住の菅野真紀子さんの知己を通じて保育園などでの広報活動が行われ、当初50人の検査を予定していたのですが、応募が100件を超えたため、12月7日に追加の検査を行いました。

また、10月26日には宮城県角田(かくた)市にある、オークプラザ(角田駅ビル内)での検査を行いました。同市の検査では、角田教会・角田幼稚園の及川先生や、角田市民放射能測定室の池田匡優さんの協力の下、広報活動が進み、定員に近い50名の子ども達が検査を受けました。(写真は10月26日 角田での検査の様様)



*2013年12月8日～2014年12月7日までの甲状腺検査結果(2011年3月11日当時18才以下の子ども対象)

	12月8日	3月30日	5月18日	7月6日	8月31日	9月21日	10月26日	11月16日	12月7日	9回計
A1	22 63%	37 79%	14 44%	11 48%	24 50%	27 82%	17 39%	14 70%	11 26%	177 55%
A2	12 34%	10 21%	16 50%	11 48%	24 50%	6 18%	24 54%	6 30%	31 74%	140 43%
B	1 3%	0	2 6%	1 4%	0	0	3 7%	0	0	7 2%
C	0	0	0		0	0		0	0	0
	35	47	32	23	48	33	44	20	42	324

親子近距離保養プロジェクトat手のひらに太陽の家

いずみでは近距離保養を行っています。(放射能への不安やストレスを抱えている)福島県内にお住いの親子が対象です。宮城県登米市登米町にある「手のひらに太陽の家」を拠点にしています。一泊二日という短期間の保養では医学的な効果があり期待できないかもしれません。しかし原発事故から3年9か月が過ぎましたが、現在福島県では官民一体となって「復興」のかけ声のもと帰還・帰村や地産地消が強力に進められているため、健やかな子どもの成長を願う保護者の方々が放射能の不安について話すことがますます難しくなっています。さまざまな事情によって避難できず、留まっている方々がおられます。保養に参加された方々から、私たちの思いに勝る反応・感想・感謝の思いをいただいて、寄せられている期待の大きさを再認識しています。限られた短い時間ではありますが、子どもたちが土や芝生の上をおもいっきり走ったり遊んだりでき、安心して食事ができ、被ばくのストレスから離れられる保養を定期的に行えるよう取り組んでいます。



おねえちゃん!もっと押してー!!

10月18日(土)～19日(日)に第3回、11月29日(土)～30日(日)に第4回の親子近距離保養を行い、合計5家族、大人7人、子ども14人がこの保養に参加されました。天然素材をふんだんに使用し、太陽光発電など自然エネルギーを導入した「手のひらに太陽の家」がある登米市周辺は、ラムサール条約に登録されている国際的にも貴重な湿地帯や、白鳥などの生態系が観察されている豊かな自然環境です。国よりも厳しい基準値を設定し、放射能測定を自主的に行っている「あいコープみやぎ」さんの安全な食材を使用し、管理栄養士スタッフが手作りの食事を提供しています。また、福島県内から往復の貸し切りバスを運行することによって、保養地までの移動など小さな子どもをお連れする参加者の負担軽減をはかっています。以下は保養に参加された方のご感想です(原文のまま掲載します)。

「子ども達は眠っている時間以外、ずっとお友達と楽しく過ごさせてたくさんのおい笑顔を見ることができました。親の私自身も安心して子どもを外で遊ばせることができ、安全な食材を使ったおいしい手料理をいただくことができ、本当にありがたい時間を過ごすことができました。福島で生活していると今後どうなっていくのか不安と心配で心が折れそうになる事もありますが、今回保養に参加させていただいて、遠く離れた地に子ども達の事を考え、支援してくださる方々がいるということに力を頂き、また前向きに頑張っていこうと改めて思いました。ありがとうございました。保養継続にはご苦労があると思いますが、子ども達が少しでも放射能から解放されのびのびと安心して過ごせる保養をこれからも続けていただけることを切に願います。 40代母親

子ども達が自由に外でのびのび遊び、本当に楽しんでいました。そのいきいきとした表情や笑顔を見ることが出来て嬉しかったです。また、スタッフの方や参加者といういろいろな話ができ心がスッキリしました。福島では復興という言葉をよく耳にしますが、まだまだ安全とは思えずに子ども達にも制限のある生活をさせています。大変だとは思いますが、これからも福島から離れられる今回保養のようなご支援をお願いします。ありがとうございました。 30代母親

第6回親子長距離保養in北海道 2014年8月18日～23日

北日本宣教会議(北海・奥羽・東北教区)といずみが共催する形で、8月18日(月)～23日(土)、夏休みを利用した5泊6日の日程で北海道への長距離保養プログラムを行いました。10家族、親子24人が参加しました。現地では、北海教区教会員の方々が温かくお迎えくださるなど、普段は制限の多い生活をされている参加者のこぼれた身体や、気持ちを解きほぐしていただくことができました。ご支援・ご協力いただいたみなさまありがとうございました。

「A2-B-C」上映会を行いました

9月27日(土)に仙台市内の東北教区センター、エマオでキュメンタリー映画「A2-B-C」の上映会を実施しました。2回上映し、会場が狭く感じる程の100人を越える方々にご覧いただきました。ご来場いただいたみなさま、ありがとうございました。この映画は、2011年3月11日に発生した東京電力福島第一原発事故による放射能汚染が人々や環境に何をもたらしたのか、数値で表すことができない実態を伝えています。テレビや新聞など、既存のメディアで伝えられなかった内容に、上映会参加者の10代の女の子は、「同世代の子ども達が将来を不安に思っていることにショックを受けた。子ども達が安心して夢を見られる日本になってほしい、と心から思います。」という感想を残しています。

映画「A2-B-C」について

この映画は日本在住のアメリカ人監督イアン・トーマス・アッシュさんが「フクシマ」を描いたドキュメンタリーです。テレビでは報道されない厳しい現実と福島県内に住む人々の切実な訴えが、カメラを通して静かに映し出されています。2013年制作



山崎先生による健康相談会

山崎知行先生による健康相談会を大阪教区と会津放射能情報センターのご協力の下、4月から隔月ごとに行ってまいりました。

4月18日 仙台 1名。6月12日 仙台 3名。8月7日(葛尾村避難者、三春町)二つの避難者仮設集会场で各10名(中高年の女性7割、同男性3割)。8月8日(石巻・栄光教会にて)「子どもの健康と未来を守る会」のメンバー10名。8月9日 仙台 5名。10月9日 仙台 1名。

*いずみでは仙台での甲状腺検査会場で「健康相談会」のちらしを配布し、検査結果で不安を持った方を中心に相談の希望者を募っています。また、放射能と向き合う市民団体やサークルの方々とのグループ相談会も実施しています。

～相談をした人の声～

「こちらの不安な気持ちに寄り添っていただき、嬉しかったです。放射能対策についても、共感し、受容していただき、心が軽くなりました。食事で免疫力を強くする方法(我が家で実施していたのですが、「よかったです。頑張ってますね」といつていただけました)を教えていただいたり、気になる咳によい漢方なども教えていただきました。なかなか身近に相談できる人もいないので、定期的に健康相談を受けられたら嬉しいです。」(6月12日の相談者)